

新たな門出と未来への決意

住民の多様な意見を町政に反映へ 3か所で意見交換会開催



▲今年の参加者は25名。保護者の方々は積極的に意見を言う我が子の姿に成長を感じていました

1月12日

二十歳を祝う会

二十歳を祝う会が公民館で開催され、式典終了後に同会場で町議会主催による「若人の集い意見交換会」が行われました。

会場では多くのご家族に見守られながら、故郷の和寒町に対する想いを新成人たちにお聞きました。

初めは緊張した様子でしたが、和寒町の未来や自身の夢などに話が広がると、真剣な表情で意見を述べられている姿が印象的でした。

また、昔話になると時折会場は笑いで包まれるなど、とても有意義な時間となりました。

これからも若者たちの未来を応援し、温かく見守り続けていきたいです。

Q 和寒町に戻ってきたいか。

A 和寒町も良い所だと思うが働く場所がないことや、交通の便が悪くメリットが少ない。今は東京に行きたいが、将来は帰ってきたい。

Q 農業を継ぐ予定は。

A 今は継ぐつもりはないが、就職してから今後のことを考えていく。

Q ふくしのまちづくりは。

A 介護施設が新しくなることは、様々な雇用も生まれて良いと思う。高齢者の健康維持に向けた制度や、ボランティア等との地域連携が必要。

Q 町と町議会への要望。

A 職場環境の改善や、雇用確保のために医療を充実させてほしい。高齢者を大切にする支援を考えてほしい。

J A青年部と活発な意見交換 大区画化や特産品の今後は

1月15日

J A北ひびき青年部



▲将来の経営ビジョンを語る青年部員の皆さん

1月15日、J A北ひびき青年部和寒支部の皆さんと意見交換会を開催しました。

青年部11名、議員8名が2班に分かれ、農業経営の現状や課題、町の政策や農業の将来像などについて意見を交わしました。

青年部から「農地の大区画化等で作業効率を高めたいがどうすれば良いのか」などの質問に対し「大区画化や区画整理は町単独では難しく、国や道の事業を活用しなければならぬ」と説明し「そのためには期成会などの団体を立ち上げて事業申請をしていく必要があり、議会としても町に要望を行っている」と伝えました。

そのほかにも「特産品であるかぼちゃやキャベツは、労働力の確保が年々難しくなっている。今後面積維持していくのは難しい」「労働力不足の対策として、公務員の副業を導入し、若手職員が農作業のアルバイトなどを行い、町全体で農業を盛り上げてほしい」など多くの意見をいただき、活発な意見交換となりました。

10年後の農業を見据えて 農民連盟と情報共有図る

2月25日

和寒町農民連盟



▲農業から福祉まで幅広い意見が交わされました

「10年後の和寒町農業について」と題し、和寒町農民連盟8名、議員8名と議場において意見交換を開催しました。

農民連盟からは、多くの質問事項が出される中、災害支援の対応に関しては「スピーディー

に農業者の気持ちになって対策してほしい」「樋門管理のマニュアルはないのか」「ポンプを増やすべきでは」との意見に関しては、樋門管理については建設課から道に対して要望しており、令和7年度は14基の樋門を直接、道が管理することを伝えました。

農業予算に関しては「この先農地集約も進み耕作面積が増えていく中で、大区画化を視野に入れたスマート農業機械への支援は必須であり、近年不採択となる国からの補助事業を補完する対策も考えてほしい」

「基幹産業は農業ということが実感として湧かない」「お金じゃない、寄り添ってほしい」との要望も出され、時間を延長しての意見交換会は、現状の課題が改めて浮き彫りとなり、議会活動に生かしていきたいと思っています。